

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第69号

## ななえ古写真物語

VOL. 69

### ななえのリンゴ

果樹組合のはじまり

昭和40年頃

鳴川地区か？



nanae historical  
museum collection

この季節、七飯町に点在する果樹園では、リンゴが彩りを鮮やかにしていきます。当町のリンゴ栽培のはじまりについては、ピチャリ第16号でも触れていますが、今回は戦後における発展について触れたいと思います。

明治初めに設置された七重官園の役割もあり、明治後半にはすでに、周辺農家へも果樹栽培が広まりました。そんな時勢の中、イチゴやブドウの共同出荷を目的に、本町地区を中心とした果樹農家が集まり、大正15年に果樹組合が設立。小林拾次郎を初代組合長として、共同出荷を始めます。

一方、大中山地区でも昭和2年に大中山園芸組合が組織され、初代組合長に山崎太郎治が就任して、果樹栽培の理論などを組合で研究することにより、果樹栽培の発展に寄与します。

両組合は、昭和30年に合併して「七飯果樹振興会」となり、北海道大学より講師を招いてリンゴ栽培の指導を受けるなど、熱心に活動しました。この組織が、後の七飯果樹組合の前身になります。

組合の組織により順調に思われた果樹栽培ですが、その後、リンゴ価格の低迷や腐乱病の大発生により暗雲が立ち込めることとなります。

昭和34年頃、畑作と水田を組み合わせた複雑経営をしていた農家では、経営難から果樹栽培を断念しなくてはならない状況になりました。この時、「リンゴ経営の品質を高めるには消毒が一番である。防除すれば、商品価値の高いものが生産される」と果樹専門農家が彼らを説得し、共同による防除の実施を提案。これにより誕生したのが鳴川果樹共同防除組合でした。

この組合では、昭和36年にアメリカ製ユニマント式スピードスプレイヤー（上の写真）を購入し防除体制を整えると共に、剪定・施肥・除草・栽培にいたるまで技術の共有を講じてリンゴの品質・収量の向上に務めました。

組合の取り組みが順調になってきた昭和38年。奇しくも全国的なリンゴ品評会が開催され、鳴川共同防除組合からも4点を出品。団体で金賞（東京卸売市場長賞）1点、銀賞1点、銅賞1点を受賞します。この結果は、組合の取り組みが間違っていなかったこと、そして七飯町のリンゴが、全国に通用するということが証明しました。

日本で初めて栽培されたななえのリンゴ。ご賞味の際には、そんな歴史も思い出して頂ければ幸いです。

**7日** ジュニア探検クラブで「牧場体験！」と題し、東大沼地区にある牧場に見学に行きました。

牧場では、生まれたばかりの子牛を見たり、特別に親牛にも触らせて頂きました。お土産に搾りたての牛乳をもらい、午後からは館に戻って、バターづくりに挑戦しました。ペットボトルに牛乳を入れて振り続けると、少しずつ小さな粒のような固まりが出来はじめ、これが集まってバターの完成です！！

ちょっと疲れる作業ですが、ある程度の固まりになるまで振り続けます！最後にパンに塗って試食・・・やはり市販のもの比べると味が薄いようでした。



## 10月の予定

1	火
2	水
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日 横津の植物観察会
21	月
22	火
23	水
24	木
25	金
26	土 ジュニア探検クラブ・町民文化祭
27	日 町民文化祭
28	月
29	火
30	水
31	木



**7日** 夜の博物館第3回講座「ななえでみられる野鳥」を日本野鳥の会道南檜山所属の田中正彦氏を講師に招き開催しました。

当館で所蔵する鳥類標本を用いて、野鳥の見分け方を解説した後、田中氏が七飯町をフィールドに続けてこられた鳥類標識調査の成果から、七飯町でみられる鳥が、どのように変化してきているかお話し頂きました。参加者の皆さんも興味深い話に聞き入ったようです。



## 標本箱づくり！！

先月実施した昆虫採集・標本づくり教室に参加した子ども達が、標本箱をつくるために、再び来館してくれました。

お菓子の箱などを利用し自作の標本箱作りに挑戦したのですが、カッターや両面テープの扱いに苦労していたようです！



※10月の休館日はありません。

### 鈴虫の音色

歴史館ロビーでは現在、鈴虫を展示中です。秋を代表する美しい音色を聴きにきてみませんか？



### 編集後記 ~tawagoto~

雲が高く感じるようになった。あたりの空気にも爽やかな涼しさが駆けている。

あたりに気を配る。木々は鮮やかな装いとなり、見上げた梢にはイカルたちが集まって忙しそうに鳴く。そして足元では、姿を見せないコオロギたちの音色だけがやけに響き渡っている。

足音は聴こえないが、確実に秋はそこまで訪れている。全ての感覚を研ぎ澄まして、この時季を楽しんで過ごしたいものだ！（やまだひさし）

Richard ~ピチャリ~ 第69号

平成25年9月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp